

妊娠期からの親子・家族の愛着形成と 虐待予防のための家庭訪問活動



報告書

2023 年度



目 次

理事長あいさつ	1
1. 2023 年度の活動概要	2
1) 家庭訪問事業	
2) 家庭訪問員養成事業	
3) 研修会	
4) 地域連携に向けての交流会	
5) ママ講座（新事業）の開催	
6) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動	
2. 活動内容	4
1) 寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
2) 家庭訪問員養成講座	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
3) 研修会	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
4) 地域連携に向けての交流会	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
5) ママ講座	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
6) NHK 歳末たすけあい年末年始支援	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
3. 今後の展望	21
参考資料	22
寄附を頂いた皆様	28

理事長あいさつ

HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）活動を始めて12年目（NPO 法人6年目）になります。本活動の理念である、親子の愛着が形成されやすい妊娠期、出産直後からの家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができる支援を行っています。2023年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを、「2類」から「5類」に移行したため、感染予防に留意しながら家庭訪問を行いました。

Covid-19の襲来から5年目になります。この間に社会環境が変化し、生活困窮者、子どもの貧困、自殺、DV、子ども虐待等が増加し、地域連携のもとでの支援を必要としています。そこで、(HFH)では「令和5年度(第73回)NHK歳末たすけあい助成」を受けて、経済的問題をもつ家庭訪問対象者に、育児や日常生活に必要な物資を提供するなど、子育て支援をしている生活困窮家庭の子どもにクリスマスプレゼントまたはお年玉としての絵本、おもちゃ、衣類などの物資を届け、対象者から大変喜ばれました。次年度も継続して行いたいと思っています。

2023年度新規事業として「ママ講座」を開設を行い、ママと子どもたちと一緒に子育ての悩みや遊びのお話など楽しい時間を持つことができました。

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震から3か月が経過し、被災を受けながらも地元住民や被災地で支援活動を応援している方々の懸命な働きで、復興に向けて動き出しています。しかし、今後の生活の目途が立たないまま避難所で生活している方々の中に、災害弱者である妊婦、産婦、子ども、子育て中の親子、老人、障がい者などの方々が、どのような支援を受けて生活しているのだろうかと考えてしまいます。地震大国である日本は、いつどこで被災するかわからないことから、過去の災害からの学びを生かして、災害弱者への対応策を次年度は考えていきたいと思っています。

さて、こども家庭庁が行政組織として創設されて2年目となりました。妊娠期から子育てまで、切れ目のない支援の実現に近づける機会と捉え、親子、家族の声を行政に届け、親子、家族が地域で安心して子育てができる環境の実現に向けて、HFHの活動として、常に前進、社会的役割と責任を活動に繋げ、地域の人々から愛される活動団体として成長していきたいと考えています。活動として、1) 家庭訪問、2) 家庭訪問員養成講座、3) 子育て中の生活困窮者への支援、4) 講演会、研修会、5) 多職種連携のための交流会などを行ってきました。報告書をまとめるに当たり、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を賜り、このような成果が得られましたことに感謝申し上げます。

稚拙な報告書ではありますが、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつのメンバーが活動理念に基づき一丸となって、日々邁進してまいります。皆様にご拝読頂き、HFHの活動をご理解の上、一緒に活動して頂ける方を募っております。皆様の温かいご理解に支えられて、家庭訪問を必要としている親子・家族に寄り添い、自立した親子・家族が増えていくことを祈願して御挨拶とさせていただきます。



NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
理事長 久保田君枝

1. 2023 年度の活動概要

1) 家庭訪問事業

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したため、家庭訪問による支援を対面による訪問を行った。地域の産科婦人科医院との連携に加えて、行政の保健師や小児科医院との連携を図り妊娠期からの支援を行った。また、対象者に活動を紹介するリーフレットと QR コードから支援要請ができる名刺大カードを浜松市内の行政機関の窓口や子育て広場、小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。QR コードからのアクセスケースは子育て期からの支援であった。

事例検討会は、毎月開催した。

<家庭訪問ケース>

2023 年度：22 ケース

2) 家庭訪問員養成事業

新型コロナウイルス感染症が 5 類になったため、4 年ぶりにすべての講座を対面で行った。HFH の家庭訪問活動の考え方に基づいて具体的な支援方法を全 10 回の講座で実施した。

<受講者数>

2023 年度 全講座受講修了者：2 人、部分受講者：9 人

3) 研修会

家庭訪問員の質の高いサービスの提供を行うために、年 1 回外部講師を招いての講演会・研修会を実施している。地域で子どもと家族を対象に開業している小児科クリニックの院長の講義を基に、子どもと家族の支援を考えた。

テーマ「近年の親子の変化とその対応」

内 容：ゆずり葉こどもクリニック 竹内里和 院長 による講義

「診療で出会う親子の変化」

講義から支援にどのようにつなげるかを意見交換

4) 地域連携に向けての交流会

質の高い子育て支援をするためには、保健・医療・福祉・教育が連携していくことが重要である。2019 年度からネットワークづくりを目指して、交流会をスタートさせ、社会福祉関係者や保健医療関係者との交流会を行ってきた。今年度は、地域の小児科医院と在日外国人を対象にした会社を営む組織の代表との交流会を開催した。

第 8 回地域連携に向けての交流会

目 的：日頃の診療の中で見られる親子の様子から、現代親子の特徴を学び、家庭訪問支援に生かす方法を検討する。

内 容：いぬかい小児科の犬飼和久院長（小児科医）による講演

「今の親子の様子と以前の親子」

質疑応答

第9回地域連携に向けての交流会

目 的：外国籍の家族の妊娠・出産・子育てに関わるニーズを知り、HFH との連携を考える。

内 容：伸栄総合サービスが運営しているしんえい保育園を訪問し、子どもたちの様子を見学した、園長の佐藤公一郎氏から外国籍の人たちの生活の現状および妊娠・出産・子育てに関わるニーズの情報を得る。

5) ママ講座（新規事業）

今年度初の試みとして、4 回子育て講座を開催した。

実施期間：2023 年 8 月～2024 年 2 月

内 容：第 1 回「離乳食について先輩ママとおしゃべり会」
第 2 回「子どもと一緒に遊びを楽しもう」
第 3 回「子育て中の防災」
第 4 回「紙芝居や絵本を楽しもう」

6) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

様々な要因で孤立しがちな社会的弱者に対して、NHK 歳末助け合いに寄せられた多くの寄付者からの温かい思いやりを届け、新しい年を迎えるための支援をする事業「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」に昨年度に続き今年度も採択され、クリスマスプレゼントを届けた。

実施期間：2023 年 12 月～2024 年 1 月

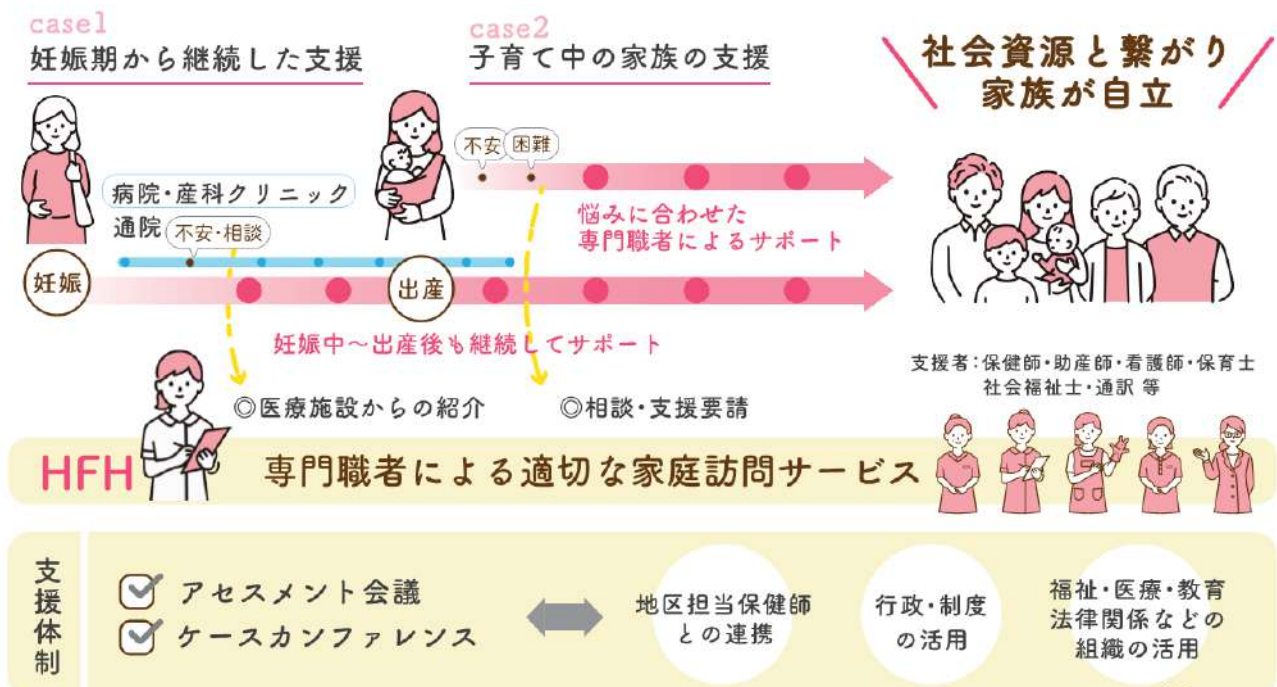
支援件数：13 家庭の 20 人の子どもにプレゼントを届けた

2. 活動内容

1) 寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援

(1) 実施内容

<HFH 活動概要図>



家庭訪問の対象は、病院などから紹介を受けて、スクリーニング項目に基づいてアセスメント会議で決定し、同意が得られたら「同意書」を交わして、妊娠期から産後6か月までの地域と



のつながりができるまでを一区切りとして家庭訪問による支援を行ってきた。家族のもつニーズの把握のための「両親の背景調査」を行い、家族がもつ長所を生かした支援計画をたて、親子の愛着形成を主軸として親になる自覚が持てるように支援してきた。

対象者に活動を紹介するリーフレットとQRコードから支援要請ができる名刺大カードを浜松市内の行政機関の窓口や子育て広場、小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。8件のアクセスがあり、5件が家庭訪問支援につながり、親として子育てに前向きに取り組む生活の安全・安定が図られるように支援した。

- ・対 象 者：妊娠中～出産直後で産科婦人科医院より家庭訪問が必要と紹介されたケースなどをアセスメント会議にかけて訪問が決定した親子。また、行政保健師などからの紹介や活動紹介のリーフレットを介して支援要請のあった親子。
- ・支 援 者：家庭訪問員は家庭訪問員養成講座受講修了している有資格者で当団体にて訪問員として登録している者。
- ・支援方法：紹介事例は、同意を得た後、出産前もしくは出産直後から訪問を開始した。QRコードからのアクセス事例は、電話で状況を確認し初回訪問時に同意書を交わした。家庭訪問は1時間を目安として、子どもの身体発育状況や育児の様子、家族の思いなどを確認した。子育てや家族の状況が不安定な時は頻回に訪問し、落ち着いた状況の時は月1回程度の訪問で様子を確認し、子どもの成長・発達に応じた関わりや今後の生活について共に考え見守った。

<2023 年度家庭訪問実施ケース>

ケース	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	30代	育児不安・メンタルの既往	継続
2	30代	メンタルの既往・子どもに発達支援が必要	継続
3	20代	育児不安	終了
4	30代	育児不安・子どもに発達支援が必要	終了
5	30代	成育歴の問題・育児不安	継続
6	30代	メンタル不安定	継続
7	30代	育児不安	終了
8	20代	支援者がいない	終了
9	30代	育児の心配	終了
10	30代	里帰り出産から自宅へ戻った時の不安	終了
11	20代	シングル、学生	終了
12	30代	支援者がいない	終了
13	30代	シングル、支援者がいない	終了
14	40代	DV、軽度身体障害あり	終了
15	30代	シングル、メンタルの問題	終了
16	20代	若年、シングル、支援者がいない	終了
17	30代	育児の心配	終了
18	30代	妊娠中期、身体障害あり	他機関対応
19	30代	育児不安、経済不安定	終了
20	30代	母発達障害、不適切育児	他機関対応
21	30代	母発達障害、支援者がいない	継続
22	30代	外国籍、不適切育児	終了

＜ケースカンファレンス会議の開催＞

- ・会 場：聖隷クリストファー大学 会議室
- ・内 容：月に 1 回家庭訪問員が集まって各々の支援状況を報告し、支援の方向性やサポート内容等を検討して次の訪問につなげた。
- ・開催日・参加者（2023 年度）

回	年月日	参加者
第 1 回	2023 年 4 月 7 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 2 回	2023 年 5 月 12 日	訪問員 10 名、事務局 1 名
第 3 回	2023 年 6 月 9 日	訪問員 7 名、事務局 1 名
第 4 回	2023 年 7 月 7 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 5 回	2023 年 8 月 4 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 6 回	2023 年 10 月 20 日	訪問員 7 名、事務局 1 名
第 7 回	2023 年 11 月 10 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 8 回	2023 年 12 月 1 日	訪問員 5 名、事務局 1 名
第 9 回	2024 年 1 月 12 日	訪問員 3 名、事務局 1 名
第 10 回	2024 年 2 月 9 日	訪問員 7 名、事務局 1 名
第 11 回	2024 年 3 月 8 日	訪問員 8 名、事務局 1 名

（2）実施結果

22 ケースに対して支援を行った。15 ケースが支援終了となり、2 ケースは他機関対応、5 ケースは 2024 年度も継続して支援していく。

2) 家庭訪問員養成講座

（1）実施内容

養成講座をスタートさせた当初からの軸である、親と子が愛着の絆を育んでいくことができるように、HFH の理念と活動目的・家庭訪問スキルなど 10 講座を開催した。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し、演習が効果的な内容も多いため全講座を対面で行った。

- ・会 場：子ども支援センターはままつ（浜松市中区泉 3-1-38 石川ビル 1 階）
- ・対 象：保健師、看護師、助産師、保育士、教育関係者、児童民生委員、行政職員、子育て支援者、バイリンガルの方等
- ・参加費：1 講座 1,000 円

第 1 回テーマ：「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際」

- ・日 時：2023 年 9 月 2 日(土) 13:00～14:30
- ・講 師：久保田君枝(聖隷クリストファー大学助産学専攻科教授)
- ・参加者：7 人

HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）の活動理念、目的をヘルシーファミリーアメリカ(以下、HFA)の活動理念を参考に、先進的な母子・家族支援の取り組みについて

説明した。アメリカ研修で学んだ、訪問者が家庭訪問時に心がけていることについて紹介した。それは、訪問者は親の育児行動、愛着行動の良い点を褒め、認め、親の肯定的な育児を促進させ、親子・家族の愛着形成を促し、親の自立を促す支援を行っていた。その成果として、子ども虐待が減少し、子どもが健全に養育され、親子・家族の絆を深め、親の自立に繋がっていた。



そこで、日本における虐待予防に、HFH は、浜松方式による家庭訪問活動を通して、ローリスクの親子が自立できる支援を行っている現状を説明し、家庭訪問の事例の紹介を通して、家庭訪問の意義などについて説明した。

さらに、HFH の会員の育成のために、研修やケースカンファレンスなどを行い、訪問員の質の担保のために行っていることを説明した、さらに、家庭訪問員の養成講座を通して会員の募集や家庭訪問員を募り、一緒に活動しましょうと働きかけた。

第2回テーマ：「地域社会の資源をつなぐ」

- ・日 時：2023 年 10 月 14 日（土）13:00～14:30
- ・講 師：山名れい子(保健師)
- ・参加者：4 人

進歩している医療連携体系と子育て支援体系との違いから、子育て支援の課題について意見交換する中で課題の整理を行った。国と自治体の取り組みについて資料を用いて説明し、特に「はままつ子育てガイド」を配布し、浜松市の現状を共有化した。HFH の愛着形成を主目的としている訪問では、実際の訪問事例を紹介しながら、地域資源を知って適切に活用していくことで、訪問対象者により寄り添ったサポートができることを紹介した。訪問事例が具体的でとても参考になったと好評で合った。最後に聞き上手、尋ね上手を確認し合った。



第3回テーマ：「ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～」

第4回テーマ：「家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～」

- ・日 時：2023 年 9 月 9 日（土）13:00～14:30、14:45～16:15
- ・講 師：行田智子(群馬県立県民健康科学大学看護学部教授)
- ・参加者：4 人

HFA の家庭訪問事業で行われているニーズの把握方法として、両親調査(ケンプ・アセスメント)について説明した。具体的には両親調査時の注意点、両親調査 10 項目の質問

例、両親調査の報告書の記入と評価、評価に基づく家族の強みと弱み（課題）の査定の方の説明をした。講師が実践した支援の紹介をしながら、妊娠期の支援と育児期の支援のポイント、妊娠期から育児期までを継続して支援していくことの重要性を説明した。実際の面談を想定して、演習も取り入れながら進めた。



第5回テーマ：「成長発達と生活づくり」

第6回テーマ：「子どもと心を通わせるふれあい遊び」

- ・日 時：2023年9月2日（土）14:45～16:15
2023年10月14日（土）14:45～16:15
- ・講 師：高橋由美子(元岐阜聖徳大学看護学部看護学科講師)
- ・参加者：5人

ライフコースにおける乳幼児期の重要性を、理論を交えながら確認し、子どもの成長・発達の概要や子どもの健康な成長・発達の基盤となる予防接種、安全、日常生活の注意点等を説明した。現代社会の特徴を踏まえて子どもの育ちや家族の理解を深めた。また、月齢ごとの特徴をふまえて支援のポイントを確認し、親子の愛着を促すあそびを紹介した。実際に乳児人形を用いて、対象者・支援者役となって、子守歌や絵本読み、ふれあい遊びの演習をした。身近な素材を使って、参加者一人ひとりが手作りのおもちゃを作成し、共有した。



第7回テーマ：「訪問の基本～ロールプレイ」

- ・日 時：2023年11月11日（土）13:00～14:30
- ・講 師：宇田公美子(ルツ助産院院長)
- ・参加者：6人

グループワークとして、ケースを設定し、ロールプレイを行った。ケースが両親調査のふり分けで何点であるか、訪問員がどのような声かけを行っていくかなど、実際の訪問を想定しグループ別にロールプレイを行い、良い点や改善点を共有した。受講者は、それまでの学びを



元に支援できることを考えたり、経験がない人は質問したりと学びを深める様子が見られた。

第8回テーマ：「訪問の実際～よくある質問と支援の内容」

・日 時：2023年11月11日（土）14:45～16:15

・講 師：木村里香(保健師)

・参加者：7人

育児支援の視点として①親子関係を観る視点。②子どもの健康な成長と発育。③母親の精神状態の把握。④夫、親族との関係の視点よりそれぞれの具体的な見方の説明をした。親のイライラを募る原因として考えられることを、



各々意見を出してもらいながら以下にまとめた。①乳幼児を知らないまま親になっている。②自己実現という欲求と関係③夫婦関係から整理し確認した。家族として観ていく、長所を生かした援助事例を通し、実際に訪問した時の支援を皆で考えた。最後に訪問にあたり、ひとりで抱え込まないこと、他の訪問員に相談すること、地区担当保健師と連携を取り合うことを伝えた。

第9回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～」

第10回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～家庭」

・日 時：2023年11月25日（土）13:00～14:30、14:45～16:15

・講 師：坂鏡子(NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長)

・参加者：6人

家庭訪問の実践を支える5つの戦略として、①ストレスを理解し寄り添う、②肯定的な事柄を強調する、③一緒に探索し思いをめぐらす、④一般化する(正常化する)、⑤問題の検討を挙げ、現実場面をイメージしながら演習した。支援者のやりがちな見



方や思い込みを振り返ることができ、肯定的な考え方を強化する3段階や戦略、聞き方の戦略、問題の検討の3段階を確認した。

(2) 実施結果

1. 講座受講者：53人（延べ人数）

全講座受講修了者：2人、部分受講者：9人

2. 家庭訪問員の養成講座のアンケート結果

問1 講座の内容全般について（4 択）

内容	回答者
1) とても満足	88.7 (%)
2) 満足	11.3 (%)
3) やや不満足	0 (%)
4) 不満足	0 (%)

問2 どんな点が良かったか(複数回答可)

内容	回答者
1) 役立つ情報が得られた	75 (%)
2) 日頃の生活や活動に役立った	55 (%)
3) スキルアップにつながった	68 (%)
4) 他の参加者との交流・情報交換が図られた	49 (%)
5) 抱えていた問題・不安の解消につながった	6 (%)

問3 その他の良かった点の内容

第1回	・ HFH の活動の背景、浜松市での現状や課題などをじっくりお伺いできて大変興味深かった。 ・ 活動されている内容や現状、アメリカでの状況がよくわかり、勉強になりました。 ・ 浜松市の子育て状況や、今悩み多い愛着、世の中の様子が聞かれた。 ・ HFA の理念に共感するところが多かったです。浜松の訪問活動が活発になるとよいと思いました。
第2回	・ 浜松市のサービス内容の理解 up につながった。 ・ 身近な話題から地域資源につなげる話や、各ケースについて伺うことができて良かった。 ・ 浜松市の行政の子育てに関する実態等聞けてよかった。 ・ 具体的があり聞き入ってしまい役に立った。 ・ 参加者が少人数なので、それぞれ思いを聞いたり和やかな雰囲気が良かったです。
第3回	・ 初めて知る両親調査、日本と他国アメリカとの違い、目からうろこでした。保育園でもこんなことができたらずいぶん保護者情報が得られ、保育にも役立てられるなあと思う。 ・ 調査するにはコミュニケーションスキルが大切ですが、難しいと感じました。 ・ ロールプレイをして実際に質問したり質問されたりできたのが良かった。
第4回	・ 強み・弱みの点は考えさせられた。子育ての強み、各家庭両親の強みをみてい

	く力…、見抜く力…、もっと勉強したいなと思った。父親の子育て、大事、今後日本のやるべき課題ですね。 ・聞きにくい内容に対してどう質問していくかが理解できた。
第5回	・大変幅広い内容で、それぞれのテーマをもっと掘り下げて学んでいきたいと思いました。
第6回	・実際に行うことで、具体的に理解できた。 ・楽しかった。相手の方も笑顔でうれしくなった。その気持ちが大切なのかな。お母さま方にもこのように接していければと考えた。なごやかな雰囲気よかった。
第7回	・他の方がどのように対応するのかを実際に見ることができた。 ・ロールプレイはやはり緊張するが必要な時間であり、他の人のやるのを見て考えたりすることが勉強になると思います。 ・実際にロールプレイをしたことでイメージを持つことができた。
第8回	・実際の事例を深く考えられたこと。具体的に考えることができた。 ・ケースを考えることで、いろいろな想い意見が聞かれたし勉強になった。 ・HFHで大事にしていること、共感します。今どきの両親も具体的でよかった。わかりやすかった。 ・対応方法の具体的方法がわかり、勉強になった。
第9回	・ロールプレイはやはりいいですね。他者の声を傾聴する、思いに寄り添う体験となり、ハッとすることもある。 ・ロールプレイもあり、実践できてわかりやすかった。 ・支援者としての視点として気づくことが多かった。 ・漠然とやっていたことが整理できた。 ・肯定的な考えの強化について具体的に考えることができた。
第10回	・ロールプレイで具体的にわかりやすかったです。 ・段階がみえる化されて理解しやすかったです。 ・戦略をもって関わることの重要性を学べて良かったです。これから対象者に対して今日学んだことを意識しながら関わっていきたいと思います。 ・戦略的に問題の整理 → 解決策へつなげることができた。 ・ロールプレイはドキドキしますが、終わった後は「あーそうか」と納得したり、考えさせられることがあり役に立つ。自分の今の仕事にもスキルアップにつながります。

問4 どんな点が良くなかったか(複数回答可)

該当なし

問5 意見

第1回	・妊娠がわかってから子どもは命、一人の人権をもって生きていく。母も父も一人の人権をもっての人間です。人権を守られ、あなたはあなたよ、あなたの思いは……と、あなたは大事よ、大切な人よ……。聴ける寄り添える世の中の雰
-----	--

	困気がなくなっていくように望みます。 • 講座に参加する方たちはとてもポジティブな方が多いと感じました。たくさんの方がこの活動を知ってくれたらいいなと思いました。 • アメリカの研修でのお話もたくさん聞くことができ、視野が広がりました。日本でも暮らしが変わり、価値観も多様化しているので参考になることがたくさんありました。 • 質の良い講義でした。とてもよかったです。
第 2 回	• 子育て世代が助けを求められる行政などのシステムをよく知りませんでした。一般的なことを学ぶことができました。とてもわかりやすく、楽しかったです。何ができるのか、できることから始めたいと思いました。
第 3 回	• 両親調査を具体的に学びできるようにしたい。 • 親への対応の悩み、そして虐待など多く、考えさせられ赤ちゃん時代に安心して子育てができれば変わっていく、大切だと感じていたので興味を持った。
第 4 回	• 聞き方や話し方、とても大切だと痛感しています。いろいろとコミュニケーション力が重要ですが、最近は自信がなくて…。考えるよいきっかけにもなりました。インタビューガイドを作ること。何でも使えると思いました。
第 5 回	• ゆさぶられ症候群の動画など、参考になるものが多かったです。自分の子育ての時とは違うことや理論的なこともわかりました。
第 6 回	• 楽しくおもちゃを作ることができました。
第 7 回	• 色々な方のロールプレイをみることで、実際にやってみたことでとても勉強になりました。 • 色々なケースのロールプレイを見れて今後の関わりの参考になりました。緊張したけど楽しかったです。
第 8 回	• 実際のケースでとてもわかりやすく学ぶことができました。
第 9 回	• 支援者のやりがちな見方、思い込みを知ることができた。育児不安や困難のもとにあるのはストレス。何気ない行動こそ認めていきたい。見るべき視点がわかった。 • 何気ない行動を大事に肯定的にみる力を培っていきたいと思います。
第 10 回	• ワークを一緒にやれて、いろんな考えや伝え方を知れた。先生の姿勢もとても勉強になった。自分の行いも意味があることを知り勇気づけられた。ますます母子のために必要な支援をしていきたいと感じた。具体的なスキルをたくさん知れた。 • 目の前の子ども（今、保育士をしている）と関わっている保護者に、この技法を頭に入れて活用すること、できるところはやってみたいと思います。 • 本当に勉強になりました。今までの自分の行動なども改めて振り返ることができました。



＜全講座受講修了者＞

3) 研修会

(1) 実施内容

近年、メンタル面の問題を抱える親に関わることが多くなった。そこで、地域で小児科医院を開業し、臨床心理士の資格も持って家族に関わっている医師を講師に迎えて研修会を行った。

- ・日 時：2024 年 2 月 27 日（木） 18:30～20:00
- ・テーマ：「近年の親子の変化とその対応」
- ・講 師：ゆずり葉こどもクリニック 竹内里和 院長
- ・会 場：聖隷クリストファー大学
- ・参加者：子育て支援に関わる者
- ・内 容：講義「診療で出会う親子の変化」

質疑応答、意見交換

開業以来のデータを整理した内容と事例に基づく情報から、近年の親子への支援への考えや連携の重要性が示された。



(2) 実施結果

1. 参加者：17 人（HFH 会員、助産師会、産婦人科医院、学生等）

2. 交流会アンケート結果

問 1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 13 人、有意義 3 人

<理由>

- ・現状を知ることができた。仕事で感じていることも多かったので。先生の視点がわかって良かったです。
- ・安心してゆっくり親になるために支えてくれる人、見守ってくれる人の存在の大きさ。これからちょっと気になるママ・親は多く存在すると思う。自分たちもそのような親を支えられるように努力しようと思う。
- ・最近の親子の変化などは先生と同じく母子健康手帳交付、マタニティ訪問、母子訪問などで感じるところではありました。もっといろいろな職種と話し合えてチャンスがあれば、より地域全体で共有、サポートできると感じました。
- ・最近の親の傾向に納得し、私の周りにもたくさんいるなと感じることがあります。子ども中心というより自分がまず第 1 と考える母が増えているように感じる、先を考えることができないこと、共感しました。
- ・事例を詳細に伺えてとても勉強になった。リスクの対応や母の気持ちについて自分も考えることができた。
- ・近年の母子関係に自分の考えもアップデート必要ではあるなとも思いつつも、やはり疑問に思うこともいくつかあります。児と離れて休みたい、完全ミルクの児、が非常に多く感じます。その背景には何があるかなと常々考えてます。
- ・普段産婦人科クリニック、行政での仕事をしていますが、開業小児科の先生と関わることはあまりないため、今回小児科の先生の立場からこの頃の母子の様子や先生が思っていることを聴くことができ、クリニックや行政の仕事の中で自分が感じていたものとすり合わせができたように思います。また、小児科の先生がこのように地域の社会福祉、育児支援に密にかかわっていることがわかり（先生方の間でも温度差があるとのことですが）、助産師、保健師間以外にもつながれるんだ、と心強い気がした。様々な職種、立場の人が情報共有し母子を支えていくことの大切さを改めて感じた。
- ・この様な出産からの情報、かかりつけ担当医からの情報は、保育園にはあまり入ってきません。クラスの中にはグレーゾーンの子どもがいっぱいいても、その子たちの 0 歳時代のことをもっと情報が入る仕組みができるよう取り組めるといいのになと思っています。
- ・小児科の先生の視点から、母子・親子の話を聞ける機会がなかったので、貴重な機会でした。共感できることがたくさんありました。自分の立場でできることを考え、やってみようと思います。また共有できる場があったらいいなと思います。
- ・クリニックでの関わりがよくわかりました。乳児の子育ては不安が多い中で様々な方のサポートがあることで心のお守りになるんだろうと感じます。地域の支援者として一人でも多くの人とつながれるよう今後も頑張れそうです。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 12 人、有意義 4 人

<理由>

- ・施設や保健師・HFH・小児科・保育園などの連携の必要性、長期間の関りが（見守ってくれる人の支え）で育児が大きな問題なくできている人も多数いるんだと思います。自分たちが関わる時期は子育て期間の一部であるが、その関わりでできること、つながりも大切にしていきたい。
- ・みんなでつながれば力強いサポートができるのではないかと希望を感じることができた。
- ・他部署での関わり事例は参考になります。どういうサポートのシステムがあるのか、具体的に聞いて参考になりました。保健師につないだ先、その後どうなっているか気にはなっています。
- ・継続的な連携についてディスカッションができてよかった。
- ・助産師さんの質問や先生の応答から、地域の関わりを丁寧に行っている様子がありました。HFH の活動が個別に連絡を取り合うことでより効果的な支援につながっているのだと考えます。ネット社会の中で対面で支援することの意義があると思います。
- ・実際のケースの話や関わる上で感じられていることを共有してもらえてよかったです。
- ・メンタル面のお母さんの接し方が大切だと感じます。
- ・色々な立場で頑張ってくださる様子がわかりました。もっと皆に知ってもらおうと良いです。

4) 地域連携に向けての交流会

(1) 実施内容

2019 年度から社会福祉活動を実践している専門職者や行政の保健師との交流会を開催し、保健・医療・福祉の活動における互いの立場を知り合うよい機会となり



り、必要な時に連携できる関係をつくっていくことの必要性を確認してきた。

2023年度は、地域の小児科医院の院長と外国籍の子どもに対応している保育園と交流して HFH との連携を検討した。

<第8回地域連携に向けての交流会>

テーマ：これからの親子とどのようにかかわればよいのか「昔の親子と今の親子から」

日 時：2023 年 6 月 29 日（木）18:30～20:00

場 所：聖隷クリストファー大学 1602 教室

内 容：いぬかい小児科院長の犬飼和久先生による講義

「今の親子の様子と以前の親子」

質疑応答

＜第9回地域連携に向けての交流会＞

テーマ：外国籍の人たちの妊娠・子育て支援について考える

日時：2024年3月25日 9:30～10:30

場所：特定地域型「しんえい保育園」

内容：施設見学

説明「外国籍の人たちの子育ての現状」

しんえい保育園 佐藤公一郎 園長

質疑応答・意見交換



（2）実施結果

＜第8回地域連携に向けての交流会＞

1. 参加者：12人

2. 交流会アンケート結果（回収9人）

問1 講義は有意義だったか（4択）

とても有意義 5人、有意義 2人、やや有意義 2人

＜理由＞

- ・先生の考え方が、資料をもとによくわかった。0歳児の保育は気になることもあったので先生の話を聞くことで母子のきずなをはぐくむ時期なんだとわかった。
- ・子どもをよく観察すること、母の幼少期からの感情を聞くこと、訪問での心がけ等再確認することができました。母と子の信頼関係をつくるお手伝いを訪問を通して行っていきたいと思います。おんぶの重要性も伝えていきたいと思いました。
- ・HFHの軸である愛着形成の大切さの再確認ができた。その視点で、日々接している色々な親の気になることやそれに対してどのように対応しているかなども聞きたかった。
- ・親子の基本的信頼関係を築くことの大切さが基本であることを再認識させられました。

＜第9回地域連携に向けての交流会＞

1. 参加者：5人

2. 交流会アンケート結果（回収 5人）

問1 見学は有意義だったか（4択）

とても有意義 5人

＜理由＞

- ・多国籍の園児が在籍する保育園を見学しその雰囲気も感じることができた。
- ・外国人の多く通園する保育所の見学を通して、子育てに関する課題などを知ることができた。子どもたちの様子を見て理解が深まった。
- ・外国人の子どもたちの保育園は知らなかったので興味があった。
- ・外国籍の親子への支援の実際や抱えている課題を知ることができた。
- ・20年以上にわたる外国籍の人たちとのかかわりの中で、ニーズを判断しながら取り組んできた今があることがわかった。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 5 人

<理由>

- ・多様性について学べた。日本人こそが意識を変える必要があると思いました。
- ・園長先生のお話から、文化の理解が日本も外国も大切であり、子育てや子どもの育ちに大きな影響があると思った。
- ・母国人としてのアイデンティティとその子どもの育て方について、日本の文化との融合の困難さを知った。お互いの文化など、発信し、知り合って理解しあえる事が大切と知った。
- ・世代によっても抱える問題が変わってくるなど、考えさせられることが多かった。園長先生の話にとっても興味を持ちました。自分ができることは何か考えさせられました。
- ・園長先生の、世代をまたいだ外国籍の親子との体験に基づいた考え方が納得でき理解が深まった。

5) ママ講座

（1）実施内容

<第1回>

日 時：2023 年 8 月 25 日（金）10:30～11:30
場 所：川淵助産院（浜松市浜北区）
対 象：離乳食が始まった赤ちゃんのママ
内 容：離乳食について先輩ママの体験談を聞きながら
スイーツを楽しむ



<第2回>

日 時：2023 年 10 月 25 日（水）10:30～11:30
場 所：浜北文化センター（浜松市浜北区）
対 象：0 歳児とママ
内 容：子どもと一緒にふれあい遊びやおしゃべり



<第3回>

日 時：2023 年 12 月 20 日（水）10:30～11:30
場 所：浜北文化センター（浜松市浜北区）
対 象：乳幼児のママ
内 容：突然の災害に向けた備えを考える。ママ同士のおしゃべり



<第4回>

日 時：2024 年 2 月 28 日（水）10:30～11:30
場 所：わく里（浜松市中央区（旧西区））
対 象：乳幼児の親子
内 容：紙芝居や絵本を楽しみながらおしゃべり

(2) 実施結果

<第1回>

1. 参加親子：3組

2. 子どもの年齢：4か月：1人、6か月：1人、7か月：1人、3歳：1人

3. アンケート結果

問1 参加の満足度（4択）

とてもよかった 2人、よかった 1人

<理由>

- ・先輩ママの話や離乳食の進め方や手抜き方法も聞けて良かった。
- ・色々な話を聞けて良かったです。もっと気楽にかまえてもよさそうで安心しました。
- ・家庭的な雰囲気でした。話しやすかったです。上の子ども連れてこれて良かったです。

問2 今後のママ講座への要望・提案

- ・月齢ごとの遊び方が知りたい。
- ・寝かしつけのやり方
- ・赤ちゃんの服装について

<第2回>

1. 参加親子：3組

2. 子どもの年齢：6か月：1人、7か月：2人

3. アンケート結果

問1 参加の満足度（4択）

とてもよかった 3人

<理由>

- ・知らない歌、遊び方を学べた。
- ・家にあるもの（タオル、トイレトペーパーの芯、ハンカチなど）を遊びに使えることが知れて良かった。
- ・遊び方に困っていたので、試してみたいです。
- ・他の子と一緒に遊べて良かった。

問2 今後のママ講座への要望・提案

- ・育児と仕事の両立についてアドバイスを聞きたい。

<第3回>

1. 参加親子：5組

2. 子どもの年齢：1か月：1人、2か月：1人、8か月：1人、1歳：1人、2歳：1人

3. アンケート結果

問1 参加の満足度（4択）

とてもよかった 5人

＜理由＞

- ・今まで防災は大人分だけだったが、子どもが生まれてどのくらいの物を用意すべきか不安だったので勉強になった。
- ・ちょうど子どもたちの防災セットを準備しないと、と思っていたのでとても勉強になった。
- ・防災について知るきっかけになった。おんぶなど方法を知ることができた。
- ・防災の準備ができていなかったのが知れてよかった。
- ・自分の防災セット+子どもの防災セットを考えるきっかけになった。ずっとセットの中身を見直してなかったなと思い出したので、これを機に見てみようと思った。

＜第4回＞

1. 参加親子：3組

2. 子どもの年齢：2か月：1人、4か月：1人、9か月：1人、2歳：1人

3. アンケート結果

問1 参加の満足度（4択）

とてもよかった 4人

＜理由＞

- ・みんなと話ができ気分転換にもなったし楽しかったです。
- ・アットホームな環境でお話ししやすい。大人も少し飲食しながらだと、子育て広場でずっと子どもを見てるより楽しめる。
- ・知らなかった絵本などありとても良かったです。お菓子もおいしかったです。子どもが絵本大好きなのでこれからもたくさん読んであげたいです。
- ・紙芝居、絵本読み聞かせ、素敵な声でゆったりきけました。おやつもとてもおいしかったです。少人数で良かったです。

6) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

2022 年度に助成を受けて経済的困窮家庭の子どもたちにプレゼントを届けて大変有意義であったため、今年度も申請し助成を得ることができた。

（1）実施内容

家庭訪問による子育て支援をしている生活困窮家庭へ、子どもへのクリスマスプレゼントとしておもちゃ、衣類、育児用品などを届けた。2023 年の家族の頑張りをほめ、子どもの年齢に応じたアドバイスをを行い、今後の成長を楽しみにして子育てして行けるように支援した。

（2）実施結果

子どもたちや家族から大変喜ばれ、「コロナ感染で仕事を休むことが多く、クリスマスプレゼントは無理だと思っていたので、あげることができて嬉しく、助かりました」「薄手のＴシャツばかりでトレーナーの冬服がなかったので、温かくなりそうでよかった」などの言葉が寄せられた。

長靴がなかったのでよかったです。早速試しに履いて喜んでいました。

薄手の T シャツばかりでトレーナーの冬服がなかったので、温かくなりそうでした。

ぬいぐるみが大好きな子たちなので、すごく喜んで飾っていました。

漫画を買わずにレンタルして読んでいました。すごく好きな本で、何度もレンタルして読んでいたので、自分のものになってすごくうれしかったです。

普段はあまり感情を出さないタイプのお母さんですが、とても朗らかな表情で「ありがとうございました。もう少し子どもが大きくなったら一緒に遊びたいです。」と受け取りました。

赤い羽根 NHK 歳末助け合い事業
NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ主催
2023 年末年始プレゼント

今年も一生懸命やりくりして暮らしているご家族が

ら感謝の言葉を寄せられました



欲しがっていたおもちゃをなかなか買ってあげられなくて、頂けて私(母)もうれしい子どもも喜びます。

今年も頂けて感激です。保育園に履いていくのが楽しみ。

コロナ感染で仕事を休むことが多く、クリスマスプレゼントは無理だと思っていたので、あげることができて嬉しく、助かりました。

上の子に買ってあげたいと思っていたブロックとお絵かきシートでありがたかったです。離乳食が始まる下の子用にいろんな種類のお湯で作れるものをもらって助かりました。作るのが難しいので。

もうすぐ下の子が生まれるので、オムツの購入が増えるので、もらえてありがたいです。

学校や保育園に行く時に履く靴がなかったのでプレゼントとしてもらえてうれしい。

料理が苦手で離乳食とても困っていました。たくさんの離乳食を頂けてとてもありがたかったです。

保育園の水筒が古くなり買ってあげたいと思っていたのですが後回しになっていたのが新しくなって子ども喜びます。
上の子のおもちゃも小さい子のばかりだったので年にあったおもちゃを買えて嬉しいです。



3. 今後の展望

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ（HFH）としての活動が6年目を迎えています。少子化・人口減少の社会状況は増々深刻さを増し、2023年4月から子ども家庭庁が創設され、こども・子育て政策の強化が謳われています。HFHは、親子・家族が地域の中で安心して子育てができる社会への一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。

経験豊富な保健医療福祉の専門職者が集まったHFHは、対象の一人ひとりを尊重して、支援を必要とする人びと・家族から求められるニーズに応えるために、社会状況の変化に対応しながら、以下の取り組みを実践していきます。

- ① 地域の産婦人科及び小児科医院、総合病院との連携を広げ、妊娠期から子育て期の家庭訪問によって親子・家族の愛着形成を促す支援とともに、子育て中の支援を必要としている親子・家族への家庭訪問による支援を実施していく。
- ② HFHにアクセスする名刺サイズカードを、支援を必要としている人の目に留まりやすいところに設置するとともに地域の保健師とのつながりを広げていく。
- ③ 家庭訪問員の資質向上に向けてスキルアップ研修会を行う。
- ④ HFH活動のピーアールや子育てに関する情報を発信するためにホームページを充実させる。
- ⑤ こども家庭庁の動きを見据えながら、行政の子育て支援関連部署とのつながりを発展させていく。
- ⑥ 災害弱者（妊婦、産婦、子ども、子育て中の親子・家族）への災害時の準備と発生時の対応の研修を行う。
- ⑦ 困窮家族を力づけた「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」助成に3回目の応募をする。



2023 年度 静岡県共同募金会助成事業

2023 年度 NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

家庭訪問員の養成講座

in
浜松



コロナ禍による生活の制約が続いたことも加わり、子育ての孤立化がますます進んでいます。孤独感を抱えたり、我が子がかわいいと思いながらも具体的な関わり方がわからず葛藤している親も少なくありません。こども家庭庁が設置され、切れ目のない包括的な子育て支援が進むことが期待されますが、子育てに悩む親をどのように受け止めサポートしていくとよいのか、支援者自身も葛藤していると思います。本講座では、ヘルシー・ファミリー・アメリカ(HFA)のプログラムの基本となる考え方を日本の状況に合わせて支援方法を学び、妊娠中や出産直後から定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成します。親にそっと寄り添い、親と子の愛着形成を促進する支援方法を習得します。

講座 No	テーマ	講師	開催日	時間
第 1 回	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝	09 月 02 日(土)	13:00~14:30
第 2 回	地域社会の資源につなぐ	山名れい子	09 月 02 日(土)	14:45~16:15
第 3 回	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行田 智子	09 月 09 日(土)	09:30~11:00
第 4 回	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行田 智子	09 月 09 日(土)	11:15~12:45
第 5 回	子どもの成長発達と生活づくり	高橋由美子	10 月 14 日(土)	13:00~14:30
第 6 回	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子	10 月 14 日(土)	14:45~16:15
第 7 回	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子	11 月 11 日(土)	13:00~14:30
第 8 回	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	木村 里香	11 月 11 日(土)	14:45~16:15
第 9 回	実践を支える5つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂 鏡子	11 月 25 日(土)	13:00~14:30
第 10 回	実践を支える5つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂 鏡子	11 月 25 日(土)	14:45~16:15

演習を伴う講座もありますが、感染予防対策を十分に行って実施します。

資料代 → 全講座 10,000 円(1 講座 1,000 円×参加回数)

会 場 → 子ども支援センターはままつ
(浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階)

対象者 → 看護師、助産師、保健師、保育士、教育関係者、
行政職員、児童民生委員、子育て支援者、
パイリンガルの方等

申込先 → hfhamamatsu@gmail.com

後 援 → 浜松市

問合せ → NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
TEL:053-488-4973 (子ども支援センターはままつ)
090-4790-7719(久保田君枝)
FAX:053-488-4974 (子ども支援センターはままつ)



WEB
申込
QR
コード



養成講座の受講者募集チラシ(表)

◎ 講 師 紹 介

講師	所属
久保田君枝	・聖隷クリストファー大学助産学専攻科教授、本法人理事長・家庭訪問員
山名れい子	・元浜松市保健師、子育て支援ボランティア、本法人家庭訪問員
行田智子	・群馬県立県民健康科学大学看護学部教授
高橋由美子	・元岐阜聖徳学園大学看護学部専任講師、本法人副理事長・家庭訪問員
宇田公美子	・ルツ助産院、新生児訪問員、本法人理事・家庭訪問員
木村里香	・保健師、子育て支援ボランティア、本法人理事・家庭訪問員
坂鏡子	・NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長

◎会場のアクセス

- 会場：浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階
- 駐車場：浜松市中区幸 5-7-30(第 2 駐車場)
駐車台数(9 台)に限りがあります。
- バス利用の場合：遠州鉄道バス「幸町」停留所
より徒歩 1 分
- カーナビ検索：053-488-4973



＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 申 込 書 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

- 講座へのお申込みは FAX・TEL またはメールでお願いいたします。
Web からの申込みできます。

FAX 053-488-4974 **TEL** 053-488-4973

メールアドレス hfhamamatsu@gmail.com



WEB 申込 QR コード

ふりがな											
お名前											
TEL		メール アドレス									
国家資格の 有無	あり（資格名： ）・ 無										
希望講座	※希望講座に○を付けて下さい。 全講座 ・ 講座 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10										

※個人情報の利用について、皆様の個人情報は本事業における目的以外で利用しません。

養成講座の受講者募集チラシ（裏）

第8回 地域連携に向けての交流会

—これからの親子とどのようにかかわればよいのか
昔の親子と今の親子から—

いぬかい小児科 犬飼和久院長

日 時

6月29日（木）

18:30～20:00

場 所

聖隷クリストファー大学 1号館1602教室

参加者

HFH会員・子育て支援に関わる者

<目的>

日頃の診療の中で見られる親子の様子から、現代親子の特徴を学び、家庭訪問支援に生かす方法を検討する。

スケジュール

18:30	開会あいさつ、趣旨説明
	講義「今の親子の様子と以前の親子」 犬飼和久先生
19:30	質疑応答
	意見交換
50	まとめ
20:00	閉会・アンケート記載

2023年度静岡県共同募金助成事業

第9回 地域連携に向けての交流会

—外国籍の人たちの妊娠・子育て支援
について考える—

講師 しんえい保育園 佐藤公一郎園長

日 時

3月25日（月） 9:30～10:30

場 所

しんえい保育園（中央区泉2丁目31-10）

参加者

HFH会員・親子支援に関わる人

スケジュール

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 9:30 | しんえい保育園の見学
「外国籍の人たちの子育ての現状」の説明 |
| 10:00 | 質疑応答
意見交換 |
| 10:30 | 閉会・アンケート記載 |

＜問い合わせ・申し込み＞

NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ 事務局

〒433-8124 浜松市中央区泉3丁目 1-38

電話:053-488-4973 URL: hfhamamatsu@gmail.com

2023年度赤い羽根共同募金助成事業

2023年度 HEALTHY FAMILY はままつ研修会

—近年の親子の変化とその対応—

講師 ゆずり葉こどもクリニック 竹内里和 院長

日 時：2024年2月27日(火)18:30～20:00

場 所：聖隷クリストファー大学 1号館6階 1602教室

参加者：HFH会員と親子の支援に関わっている人先着30名

参加費：1,000円

日々の診療で出会う親子の様子をお話しいただき、
HEALTHY FAMILY はままつ（HFH）との連携や家族
支援に必要なことを考えあいましょう。

スケジュール

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 18:30 | 開会あいさつ、趣旨説明
講義「診療で出会う親子の変化」竹内里和先生 |
| 19:30 | 質疑応答
意見交換 |
| 50 | まとめ |
| 20:00 | 閉会・アンケート記載 |

<申し込み・お問い合わせ>

理事長 久保田君枝（聖隷クリストファー大学助産学専攻科）

研究室：053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局：053-488-4973 healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当：山城、高橋



WEB申込QRコード

2023 年度研修会チラシ

2023年度静岡県共同募議会助成事業

2023年度 NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ主催

ママ講座

第1回 8月25日(金) 10:30～11:30
離乳食について先輩ママの体験談を聞きながらスイーツを楽しみましょう。

対象	離乳食が始まった赤ちゃんのママ	持ち物	母子健康手帳
講師	先輩ママ、助産師	参加費	500円
場所	川淵助産院 浜松市浜北区小松490		

第2回 10月 子どもと一緒に遊びを楽しもう

第3回 12月 子育て中の防災について考えよう

第4回 2024年2月 地域の活動とコラボ企画予定

お申込み・お問い合わせ先
理事長 久保田君枝 聖隷クリストファー大学 助産学専攻科
研究室: 053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp
HFH事務局 healthy.family.hamamatsu@gmail.com
担当: 山城、高橋

2023年度静岡県共同募議会助成事業

2023年度 NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ主催

ママ講座

第2回 10月25日(水) 10:30～11:30
子どもと一緒にふれあい遊びやおしゃべりを楽しみましょう。

対象	0歳児とママ	持ち物	母子健康手帳
場所	浜北文化センター 本館2階 第1和室		
参加費	500円		

手作りおもちゃのお土産付き

第3回 12月 子育て中の防災についておしゃべりしましょう

第4回 2024年2月 地域の活動とコラボ企画予定
お申込み・お問い合わせ先

理事長 久保田君枝 聖隷クリストファー大学 助産学専攻科
研究室: 053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp
事務局 healthy.family.hamamatsu@gmail.com
TEL: 053-488-4973 担当: 山城、高橋

2023年度静岡県共同募議会助成事業

2023年度 NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ主催

ママのおしゃべり会

第3回 12月20日(水) 10:30～11:30
突然の災害に向けた備えを考えましょう。そして、ママ同士のおしゃべりを楽しみましょう。

対象	乳幼児のママ(子連れ参加OK)	持ち物	母子健康手帳
場所	浜北文化センター 本館2階 第1和室		
参加費	500円		

第1駐車場に車を停めて正面玄関から、または第5駐車場に停めて裏口から入館するのが便利です。

第4回 2024年2月 地域の活動とコラボ企画予定

お申込み・お問い合わせ先
理事長 久保田君枝 聖隷クリストファー大学 助産学専攻科
研究室: 053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp
事務局 healthy.family.hamamatsu@gmail.com
TEL: 053-488-4973 担当: 山城、高橋
米当日の緊急連絡は、事務局のメールが電話へお願いします

2023年度静岡県共同募議会助成事業

2023年度 NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ主催

ママのおしゃべり会

第4回 2月28日(水) 10:30～11:30
紙芝居や絵本を楽しみながらおしゃべりしましょう。

手作りお菓子もお楽しみに

対象	乳幼児の親子	持ち物	母子健康手帳
場所	浜松市中央区(旧西区)大久保「わく里」 申込された方には詳しい場所をご案内します		
参加費	500円		

お申込み・お問い合わせ先
理事長 久保田君枝 聖隷クリストファー大学 助産学専攻科
研究室: 053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp
事務局 healthy.family.hamamatsu@gmail.com
TEL: 053-488-4973 担当: 山城、高橋

ママ講座チラシ

「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ」

にご理解とご協力いただき、心より感謝申し上げます。

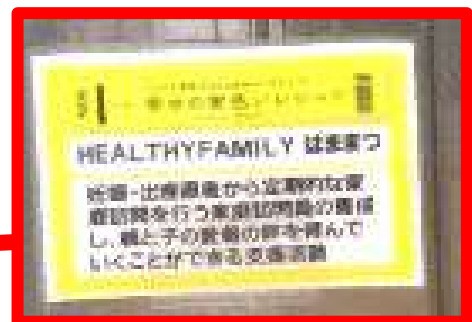
＜2023 年度 寄附者ご芳名（2023 年 4 月～2024 年 2 月現在）＞

- ・いぬかい小児科 様
- ・ゆずり葉こどもクリニック 様
- ・個人の支援者の皆様 13名

合計金額は 154,025 円でした。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」による御協力

- ・イオン浜松西店 様
- ・マックスバリュート浜松和田店 様



親子の強みを大切に



HEALTHY FAMILY はままつ

妊娠期から親子・家族の愛着形成と虐待予防のための家庭訪問活動 報告書

2024 年 3 月 発行

発 行

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

発行者

理事長 久保田 君枝

連絡先

住所 〒433-8124
浜松市中央区泉三丁目 1-38 石川ビル 2F
電話 053-488-4973
メール hfhmamatsu@gmail.com
WEB <http://hfh.jp/>

